

都島工高の学校改革

大阪市立都島工業高等学校 正会員 福山 和夫

はじめに

学校週5日制と新学習指導要領の実施および近年の少子化が進む中、本校学校改革は、スタートしてから3年が経過して、様々な困難を克服しながら一定の成果を収めている。学校改革が行われる中で、都市工学科は「魅力と活力ある学科」を目指し、生徒1人1人の進路目標を達成させること、価値あるライセンスを取得させること、生徒が意欲と誇りを持って勉学その他学校生活を送れる環境を提供すること、学科および生徒達が周囲に認められ高く評価されること、の4点を満たさねばならないと考えてきた。

今回の発表では、本校の学校改革の内容とその中で土木教育を進める都市工学科のあり方、そして学校改革を推進していく中で困難を克服しながら成果を収める経過について報告する。

都島工高の学校改革

1. 7限授業の実施

平成14年度から完全学校週5日制が実施された。本校では、授業時間減を緩和し本校生の学力レベルを維持・向上させるために、2期制の導入と45分7限授業を実施している。45分7限授業を2期制で行うことで、授業日数・授業時間数を確保し、今までと同じ3年間で99単位を維持している。同時に、放課後への影響を最小限にして、従来と同様に充実した部活動等が行えることを企図している。

2. 総合募集と所属科の選択

近年の少子化に伴い、本校でも平成15年度から、2クラスの学級減を余儀なくされた。本校ではその対応として、これを学校改革の源ととらえ、機械科と機械電気科、そして建築科と都市工学科を各学科60名ずつ合わせて120名の総合募集を行うこととした。総合募集の入学生徒は、1年生の前期に両科に共通する内容を学習し、各学科の学習内容や特徴や進路先などを理解し、自己の適性を把握して所属科を選択する。そして1年の後期から所属科の専門科目を学習する。このように、総合募集のシステムをとりながら、できるだけ早く各学科独自の個々の専門科目の内容に入ることで、より高い専門の実力を身につけて、必要なライセンスを取得し、進学や就職試験に対応できるようにしている。

3. 新教育課程の編成

系列制については、平成2年に英数系列と工業系列の2つの系列が設置され、新教育課程においても従来より授業時間数を拡大している。進学希望生徒には英数系列を選択させ、数学と英語を中心に大学の入試や高専の編入試験に対応できる実力を身につけさせようとしている。就職希望生徒には工業系列を選択させて、公務員試験や企業の就職試験に対応しつつ卒業後は実社会で活躍できる専門の実力を備えさせようとしている。

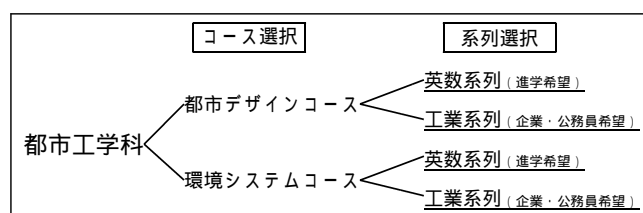


図1 都市工学科のコースおよび系列

コース制授業について都市工学科では、近年大学等でも建設工学が建設部門と環境部門の2学科もしくは2コースが設置されているのを参考にして「都市デザインコース」と「環境システムコース」を2つのコースを設けた。

キーワード：学校改革、総合募集、新教育課程、進路指導、資格取得

連絡先：〒534-0015 大阪市都島区善源寺町1-5-64 大阪市立都島工業高等学校都市工学科

TEL：06-6921-0276 FAX：06-6922-7809

学校設定科目について、都市工学科では学習指導要領にない学校独自で設定した科目を実施してきた。学校設定科目を実施してきた目的は、都市工学科の学習体系全体における不足部分を補完することと、科目の内容にふさわしい名称をつけて円滑に授業を展開することである。

4. 都市工学科の取り組み

進路指導の充実について、都市工学科では進路の3本柱を、進学・公務員・企業就職としている。就職難の近年において、最も厳しく学力を問われる公務員試験の対策として、放課後や休業期間中に公務員受験専門学校の先生を学校に招いて「公務員受験対策特別講座」を実施して、一般教養対策にあてている。

資格取得について、国家試験として「測量士補」「土木施工技術者試験」の国家資格取得を2大目標として、日常の授業内容を精選して合格に向かうレベルを目指し、さらに放課後や早朝の補講を実施し、後期終業式後の春休みに宿泊測量実習を1年生(新2年生)を対象に実施している。

・学校改革の進行状況

1. 総合募集後の学科選択

本校の学校改革で最大の懸案事項は、120名の総合募集で入学した生徒の建築科と都市工学科の希望人数がそれぞれ約60名ずつになることである。平成15年度～平成17年度までの科選択の希望状況は、学校全体および建築科との協力体制と都市工学科の取り組みにより、最終の科選択申し込みの段階において、約60名ずつになっている。

2. 進路指導の充実

図2のグラフは、進路先の割合の変遷である。進学者数については、着実な伸びと進学先の充実を示しており、取り組みの成果が表れている。就職について、苦しい取り組みを余儀なくされているが、なんとか最大限可能な人数を維持し続けているところである。専門教育を中心に、生徒の学力保証が大変重要になっている。

3. 資格取得

図3が、学科改編以来の国家資格合格者数である。棒グラフの左が測量士補、右が土木施工技術者を表している。平成15年度の入学生から生徒定員が80名から60名に減っているため、受験者数の減少を、測量士補は平成16年度から、土木施工技術者は平成17年度から余儀なくされている。しかし、各国家資格の合格者数については、かつての実績を維持し続けているところである。

・おわりに

学校改革に伴い、総合募集後の所属科の選択、また普通科目の40人クラスと専門科目の30人クラスの編成、複数の時間割、出欠管理、現場見学等の行事は常に建築科と日程を合わせる必要があるなど、担任業務を始め教員の仕事が煩雑となっていることは確かである。しかし、この学校改革には、意欲ある生徒の確保や進路目標の達成、国家資格の取得など、多くの利点が存在している。これらの利点を生かすために、要所に十分なエネルギーを注入して、魅力と活力のある専門教育を実施していきたいと考えている。

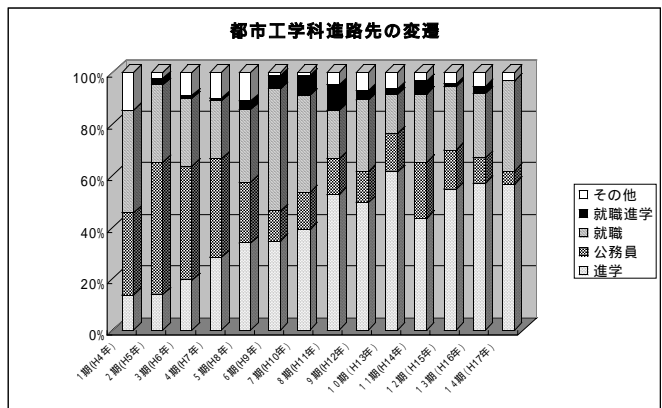


図2 都市工学科進路先の変遷

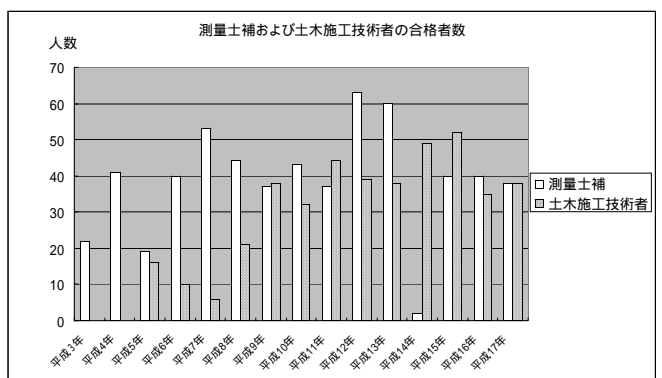


図3 測量士補および土木施工技術者の合格者数